宮城大学 後援会報 Vol.52

発　行
平成31年2月28日
発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381
編　集
宮城大学後援会事務局

主催事業「林家たい平氏講演会」

まずは一人を喜ばせること

後援会主催事業の講演会が、昨年11月24日、大和キャンパス講堂で行われました。恒例の事業ですが、今回は初めて大和キャンパス大学祭と日程を切り離し、単独開催となりました。

講師は落語家林家たい平さん。テレビ「笑点」の大喜利レギュラーとして人気が高く、後援会員、大学関係者、一般の方など約700人でほぼ満席となりました。

「笑顔のもとに笑顔が集まる」と題して始まった講演会、冒頭たい平師匠は「皆さん、こんにちは」と会場にあいさつ。ところが会場からは小声の「こんにちは」がちらほら。すかさず師匠は「あいさつはとても大事です。自分が出した息の分だけ元気がふっと体に入ってきます」ときつい一言。やっと会場から「こんにちは」の元気な声が返って講演が始まりました。

大学時代に落語と出会い入門。修業時代を経て「笑点」24年ぶりの新メンバーに加わったこと。24時間テレビでランナーを務め、2年連続で「東北・みやぎ復興マラソン」に出場したこと。これらのエピソードを人情の機微を織り交ぜ、情景が浮かぶように展開します。落語の世界を彷彿とさせる語り口に、会場全体が笑いに包まれながら引き込まれていきました。

修業時代に五代目柳家小さん師匠から「一生懸命お茶をいれたらおれが喜ぶ。一人を喜ばせられたら百人だって千人だって喜ばせられる」と修行の意味を説かれ「一人を喜ばせて笑顔にできたら、そこで止まることはなくたくさんの笑顔を作ることができる」と納得できたとのこと。東日本大震災後、被災地石巻市と関わる中で「自分が動いた先に笑顔が生まれる。それが私の仕事」と学んだと言います。

さらに「毎日つまらないな、と思っている人には楽しいことが見えない。気持ちを変えて、楽しいことがあるんじゃないかと思っている人には楽しいことが起きてくる。そう思います」と締めくくり、満場の聴衆に「笑顔の種」をそっと握らせてくれました。

（理事　齋藤浩美）

地域との相互交流「研究フォーラム&第九コンサート」

大合唱団で第九を歌い継ぐ

平成30年12月16日（日曜日）、宮城大学大和キャンパスにて「研究フォーラム&第九コンサート」を開催しました。

「研究フォーラム&第九コンサート」は、東日本大震災が発生した平成23年の12月に、宮城大学が実施する震災復興支援事業の一環として、地域住民や関係者の皆さまのご協力のもとスタートした「宮城大学　復興支援コンサート」の後継事業で、今年で開催8年目を迎えました。昨年からは、県内唯一の公立大学として、地域の皆さまとのつながりをより深める機会としていくため、本学が日ごろ取り組んでいる教育研究活動の成果を紹介する「研究フォーラム」を併せて開催しています。

第一部では、宮城大学事業構想学群の舟引敏明教授より、「地域の魅力を見つけだすブラタモリ的方法論」と題し、地域を題材とした講演を、第二部では、MYU杜の混声合唱団と地域の皆さまで結成された「宮城大学で第九を歌う会 合唱団」が中心となり、第九コンサートを開催しました。

当日は約700人の方が来学され、研究フォーラム及びコンサートを聴講、鑑賞いただきました。

宮城大学では、引き続き、地域の皆さまとの絆がより強固で深いものとなるよう、様々な形で地域との相互交流を進めていきたいと考えております。

（企画・入試課）

記事一覧

2面●後援会役員・学生代表意見交換会／「絆」
3面●コラム／キャリアインカレ
4面・5面●大学祭2018／大和学生会執行部の試み
6面●「コンボケーションデイ 2018秋」／サッカーサークル全国大会出場
7面●図書館をリニューアル「ディスカバリーコモンズ」に
8面●教員からの一言／「終身会員の集い」開催／大学からのお知らせ／総会のご案内／終身会員制度のご案内

〒981-3298　宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学　学生支援グループ内
TEL：022(377)8381
FAX：022(377)8282
E-mail：kouenkai@myu.ac.jp
URL：http://www.myu.ac.jp/~kouenkai/

教員からの一言

地域で学ぶ仕組みをつくる

事業構想学群准教授　佐々木秀之

宮城大学では、1年生の前期に「地域フィールドワーク」を行います。全学の1年生約400人が一斉に地域に繰り出します。その後、地域での学びを深めたい学生には、「コミュニティ・プランナー」という科目が用意されています。こうした取り組みはサービスラーニングと呼ばれることがあります。社会奉仕活動（サービス）と学習活動（ラーニング）を組み合わせた学習スタイルであり、大学教育と社会貢献の融合を目指すものです。

科目の内容を検討する際、サービスラーニングの先進地である米国のポートランド州立大学へ研修にいきました。ポートランドは、住民主体のまちづくりの分野でも注目を集めています。私たちも震災復興の文脈を活かしながら、学生が主体的に地域で学べるような特色あるプログラム構築に励んでいます。

写真は、昨年10月に実施した、コミュニティ・プランナー実践論におけるフィールドスタディの様子です。地域の課題を自分事として捉え、提案につなげていきました。

大学からのお知らせ

卒業式のご案内

平成30年度宮城大学卒業証書・学位記授与式を挙行しますので、ご出席ください。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。なお、式場内の座席数は限られているため、満席となった場合は、式場外のモニターでご覧いただくことになりますので、ご了承ください。式典の詳細は、大学ホームページに掲載しております。（URL：http://www.myu.ac.jp）

●日時：平成31年3月19日（火）受付　9時開始
　　式典　10時～11時頃

※卒業式に引き続き学生表彰式を行います。（20分程度）

●場所：宮城大学大和キャンパス講堂

（学務課☎022（377）8215）

編集後記

本誌で紹介したコモンズに足を運んでみました。“居心地のいい空間”というのが第一印象です。これまでの教育施設からは想像できないような素敵な空間でした。学生の主体的な学習を支援するのが主目的ですが、いずれ子供の居場所があるということは、親心をどことなくホッとさせてくれるように感じました。皆さまも一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

（S・I）

後援会からのお知らせ

平成31年度 後援会総会を開催します

平成31年度後援会総会を東京エレクトロンホール宮城大ホールで開催致します。議題は、平成30年度事業報告・決算報告、平成31年度事業計画・予算案などです。ご出席くださいますようご案内致します。（※駐車場はございませんので公共交通機関又は近くの有料駐車場をご利用下さい。）

●日　時：平成31年4月3日（水）
　入学式終了後 12時05分～12時45分（予定）

●場　所：東京エレクトロンホール宮城　大ホール

（後援会事務局☎022（377）8381）

後援会終身会員制度のご案内

後援会では父母の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。卒業生の父母の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報、及び主催事業の案内等を20年間送付致します。

大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、自主自律の運営を目指す宮城大を、更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

今年度卒業を予定されている父母の皆さまには、改めてご案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方にご賛同いただきますようお願い致します。

宮城大学後援会「第1回終身会員の集い」開催される

今後、定期的な開催も

平成31年2月2日、「終身会員の集い」がDUCCA仙台駅前店を会場に盛大に開催されました。参加者は川上理事長兼学長を来賓とした会員25人。

終身会員制度は発足して20年を迎えますが、個々では活動を行っておりましたが、全体での活動はありませんでした。会員数が増えるにつれ、終身会員が集まる場がないとの声が高まり、発起人代表の阿部孝一さんが中心となって、今回の開催となり、懐かしい方々と親交を深める機会となりました。

会では川上理事長のあいさつで宮城大学の3本柱の新しい取り組みを伺い、大学の発展と総合力のある学生の育成に、益々期待できるものと確信致しました。

また野口昌志初代会長から後援会発足のいきさつや運営の苦労を伺い、今日の後援会が築かれるまでは大変な道程だったことをあらためて認識し、今も受け継がれている「自主、自律の精神」を今後も継承する責任があると痛感しました。

その後、参加者全員より近況報告があり、あっという間に時間が過ぎ会を終了しました。

参加者からは「今後もこうした会の定期的な開催を」との声が高まり、継続開催に向け、今回の発起人を終身会員の世話人とすることが承認されました。今後の活動の広がりが期待されます。

（後援会監事　「終身会員の集い」世話人　下山晴朗）

column

コラム「人生はひとつのチャンス」㊦

チャンスの神様は髪の毛が一本！

看護学群講師　松永　早苗

看護師として働き始めた時、私は自分の出来なさに落ち込みました。でも、元来あまり深く物事を考えない私は、先輩が指導してくれることを素直に聞け、周囲のサポートを受け、臨床経験を積むことができました。新人教育にも携わり、ちょうど油の乗った時期でした。救急専門の病院に勤務していたこともあり、日々運ばれてくる患者さんを看て、「人生は一回しかない！命ある間にやりたいことをする！」という気持ちが湧いてきました。同僚と、「チャンスの神様は髪の毛が一本」という合言葉を胸に、同僚は「結婚」という人生を、私は「海外でのボランティア」というチャンスをつかみました。つかんだチャンスは、なかなかの試練を私に与えてくれましたが、このボランティア活動から学んだ雑草根性は、今の私を支えています。

私の尊敬するマザーテレサは、人生において何かをつかむためには、「5つの気をつけなさい。」を言葉として残しています。

1. 思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。
2. 言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。
3. 行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。
4. 習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。
5. 性格に気をつけさない、それはいつか運命になるから。

これは、「運命」であるチャンスの神様の髪の毛をつかみ取るために必要なことだと思います。皆さまのお子様が、日々の学生生活を充実させ、「運命」の神様の髪の毛を夢中でつかんでくれるよう、お手伝いできればと思います。

▲宮城の文化を家族で楽しんでいます

（まつながさなえ）

看護師として大阪で働いたのち、青年海外協力隊（パラオ共和国派遣）に参加する。帰国後、感染管理認定看護師を取得し、臨床や地域での感染対策活動に従事する。将来、日本と世界を感染対策で結ぶ仕事を担いたく、まずは看護の研究と教育だと考え、現在の職場に在籍している。

後援会役員と学生代表が意見交換

学生に寄り添う支援

学生代表と後援会役員との意見交換会が、10月25日大和キャンパス、10月30日太白キャンパスにてそれぞれ開催されました。この意見交換会は、執行委員会はじめ各委員会の代表者と、後援会役員・教職員が、年に一度直接意見を交換する貴重な場として設けられているものです。

各キャンパスとも各委員会からの活動報告後、活発な意見交換がなされましたが、両キャンパスで共通の課題として執行部などへの参加者が少ない（学生の関心が薄い）ということ、後援会から支援していた資料印刷用のプリンターがなくなったため対応に苦慮していること、大学祭運営の問題点などが挙げられました。それぞれの課題、問題点などに対して役員からは様々な意見やアドバイスがだされましたが、特にプリンターについては大学側のインフラの活用も視野に入れ、今後、後援会として大学側と調整することとしました。

また大和キャンパスのサークル連絡会から、サッカーサークルが全国大会に出場が決まったことが報告され一同の祝福を受けましたが、遠征費の支援に関して要望がありました。後援会としては通常の助成金以外の出費は難しいが、11／24に開催される後援会主催の「林家たい平講演会」の時の募金活動を提案し、後日談とはなりますが多くの後援会会員の皆さまにご支援を頂くことができました。

このように、後援会は今後も学生に寄り添った活動を継続していきますが、今回の意見交換会に限らず意見要望等があればいつでも事務局へ申し出て欲しいと思います。

（後援会副会長　関孝エ）

▲それぞれのキャンパスで行われた意見交換会（左：大和キャンパス）

絆 No.21

在校生、卒業生、父母、教職員などさまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。今回ご登場いただくのは後援会初代副会長の穴澤鉄男さんです。穴澤さんは長きにわたり本会の運営に携わり会の礎を築いた第一人者です。当時を振り返り思い出に残るシーンをお話いただきました。

悪夢のような10周年誌編集作業

終身会員、初代副会長　穴澤　鉄男

後援会終身会員としての私の期限が間もなく切れるという。と言っても、第1回入学生の保護者の場合である。子女が卒業して20年間という決まりの制度だからだ。

私が野口昌志初代会長と共に、後援会の設立にかかわった偶然が絡むいきさつは、10周年記念誌に書いた。初代学長野田一夫氏の呼び掛けに応じ、大学発足の年後援会設立に走り回り、初代副会長、その後理事として、11年間後援会の運営にかかわった。

思い起こすと、理事会はいつも激論だった。事務局が用意した原案に2、3質問して「了承」などという形式的会議はほとんどなく時にはけんか腰の時もあった記憶である。

私がお手伝いして、今も形が残っている仕事と言えば①後援会報の発行②10周年記念誌の編集発行―の二つがあるだろうか。

後援会報に関して言えば、私がたまたま新聞社の編集部門で長く働いていたことで、ノウハウの提供を求められた。当初から事務局を担当する伊藤早苗さんと共に、ページ構成からレイアウト、見出しに至るまで現在まで続く会報の原型を作った。

今思い返してもぞっとするのは、10周年記念誌の編集である。編集委員会が設置され、その一員として参加。本のイメージ作りの作業から始まった。しかし会議を何回重ねて議論しても、イメージが焦点を結ばない。悪夢のような日々が続いた。

本の編集と新聞の編集は全くノウハウが異なる。私自身本のイメージについて「正解」を持ち合わせていなかったことも響いた。結局、外部の専門家に加わってもらうことで、全体構成、ページデザイン、コンテンツ発掘などを行い、何とか期日まで発行できた。

終身会員としての身分が切れることで、後援会との直接の縁は切れるが、宮城大の一応援団員として、精神的な支援を続けたい。

▲2004年、後援会の発展に尽力した野口（前列左）、穴澤（前列右）両氏へ大学より感謝状が送られました。

学生参加型ビジネスコンテスト「キャリアインカレ2018」

予選を勝ち抜き 本学学生が全国大会準決勝進出

事業構想学群教授　日原広一

就職・進学の大手人材情報サービス会社マイナビ（旧毎日コミュニケーションズ）主催の学生参加型ビジネスコンテスト「キャリアインカレ2018」の全国大会において本学学生2チームが見事準決勝進出を果たしました（大会エントリー者数1796人、参加348チーム）。

平成30年12月16日東京JR新宿ミライタワーのマイナビ本社で開催された当該コンテストの全国大会準決勝に進出したのは、それに先立ち11月に実施された地区予選東北大会に見事優勝を果たしたチーム「M3（王　安娜、佐藤里菜、三浦彩奈 ※事業構想学部3年生）」と、学内選抜を経て出場を果たしたチーム「ペイズリー（大町沙耶、水野隆介、豊蔵露斗 ※同学部3年生）」の2チームです。両チームはその後のビデオ審査（2次予選）を見事に勝ち上がったもので、1大学で複数チームが準決勝進出を果たしたのは本学以外数校と希少であり、誇れる結果となりました。

準決勝には5つのエントリー企業団体（セコム、自民党、東京証券取引所、ワコール、JAL）から出された各テーマに対して、勝ち上がった上位8チームが臨みました。ワコール及び自民党からのテーマに挑んだ本学両チームは、残念ながら決勝進出（各テーマの首位＝5チーム）には残れなかったものの、名だたる有名大学からの強豪チームと比較してむしろ優位と思える堂々たるプレゼンで、観ていた筆者も鼻高々でした。来年度は是非とも頂点を目指して！

▲キャリアインカレ準決勝に出場した学生

大和学生会執行部の試み

課題の「後継者不足」、解決に取り組んだ日々

事業構想学部デザイン情報学科
３年　**佐藤里菜**

私が代表を務めた時の執行部の課題は「後継者不足」でした。当時は２年生が3人、途中加入の１年生が１人という状況でした。執行部の役割は、大学における学生の生活をより充実させるという抽象的なものです。具体的な目標は自分たちで設定していかねばならないことが、この団体の人手不足の原因であると感じました。

人手不足の原因を突き止めてからは、形に残る活動をすることにこだわりました。例えば大学の施設紹介と執行部の紹介を組み合わせたリーフレット「MYU マップ」の制作は、最も力を注いだ形に残る活動の１つでした。これからの宮城大学を築いていく新入生に焦点を絞り、こうした活動に共感してくれる新入生が１人でも多くいればと願いを込めて作りました。結果的に７人の新入生が加入してくれた時はとても感動しました。

後輩たちには、向き合うことに時間がかかる問題でも、常に考え続ける力を養い活動に取り組んでもらえるようエールを送りたいと思います。

▲成人式でむすび丸と

MYUFES ‘2018

―10月7・8日大和で、13・14日太白で開催―

雨ニモマケズ、風ニモマケなかった祭典!

今年度は『唯祭独尊 ～Timyu Slip～』というテーマのもと、大学祭運営に取り組みました。楽しんでいただけましたでしょうか。実行委員自身も大学祭を通じて貴重な経験を得たことはもちろんですが、とても楽しむことができました。

大学祭前日、不運にも台風が接近し、開催が出来ないかもしれないという心配もありましたが、当日は天候も回復し、様々な方のご協力もありなんとか無事に開催することができました。

今年は後援会の主催事業と併催でなかったため、来場者数が昨年より少なくなりましたが、抽選会やステージパフォーマンスなどの人気企画はとても盛り上がりました。

現在、すでに来年度の大学祭開催に向けて、新メンバーによる実行委員会が立ち上り着々と準備を進めています。新たな取り組みも増え、今年度の大学祭を上回るものを作り上げてくれると思います。

今後も皆さまに楽しんでいただける大学祭を目指し、実行委員一同努力して参ります。ご協力、ご支援ありがとうございました。

（大和キャンパス大学祭実行委員長
事業構想学群2年　大和田　圭）

◀実行委員集合

▲It’s show time!

▲ようこそ MYU へ

◀ミューくんがころんだ!

▲ステージ前で盛り上がるギャラリー

フィナーレは恒例の花火で▶

▲クイズで盛り上がるステージ

▲学祭の定番メニュー、フカバーガー

▲お点前でお客さまをおもてなし

▼かわいいキャンパスのマスコット
「さくら」（左）と「コウメ」

▲大豊作!

▲賑わう露店

▲餅まきに歓声が上がる

▲食べ物たくさん

困難を乗り越え、達成感!

今年の大学祭は、「宮食祭～食べ物たくさん、ここ食産、向こうに見えるは太白山～」というテーマを掲げ活動してきました。縁日のような雰囲気でかつ食産業学群らしさを追求した大学祭にしようと春から各部署精一杯準備に励みました。

大学祭の全工程を終えホット一息＝前委員長と２ショットの上野さん㊨

恒例となった「男装女装コンテスト」や「大食い自慢」などは今年も人気の企画で、大いに盛り上がりました。大学祭を成功で終えることができたことを今は大変うれしく思っています。

ただ準備段階ではすべて順調に事が進んだわけではありませんでした。ステージの設営方法を急きょ変更せざるを得なくなるアクシデントがあったり、事務局への連絡不足で施設利用が難しくなったり、直前まではらはらの連続でした。関係者の皆さまのご協力で、結果的には事故もなく無事に終了することができました。これらの反省点を次の大学祭実行委員会にしっかり引き継ぎ、来年度の大学祭の成功を手助けしていきたいと思います。

太白キャンパスの大学祭に関わってくださった全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。

（太白キャンパス大学祭実行委員長 食産業学群２年 上野優毅）

新入生交流事業「コンボケーションデイ」秋

「食」をテーマに太白で

太白事務室 教務・学生支援グループ　藤本 聡子

9月20日（木）に太白キャンパスで秋のコンボケーションデイを開催しました。「コンボケーションデイ」（通称コンボケ）とは、学生同士のコミュニケーションをテーマとした交流企画で、春は大和キャンパスでブラインドサッカーを通して、秋は食産業学群がある太白キャンパスが会場ということで「食」をテーマに、学群を超えて交流活動を行いました。

今回は宮城県内の食に関する12の企業や団体にご協力をいただき、午前中は学群ごとにグループに分かれて企業・団体を見学しました。厳格な衛生管理や商品開発の大変さ、地域への貢献等を知り、普段何気なく口にしている食品への見る目が変わったようでした。

▲探検ラリーの様子

お昼は食産業学群長の西川正純教授が開発に携わった「赤皿貝炊き込み飯弁当」を開発秘話の映像を見ながら味わいました。味もさることながら、牡蠣の養殖で邪魔者扱いされていた赤皿貝を活かすという発想に驚いた学生が多かったようです。

▲開発秘話の映像を見ながら、赤皿貝弁当の昼食

午後は3学群混合のグループになり、クイズに答えながら太白キャンパスを探検するラリー（得点上位の3グループには、本学坪沼農場産のお米を贈呈！）と全国に誇れる宮城の食を見つけるグループワークを行いました。

普段は他学群の学生同士で交流する機会があまりないのですが、「食」がテーマのせいか、探検ラリーで接したヤギやタコのおかげか、各グループ楽しみながら活動しているようでした。コンボケをきっかけにキャンパス・学群を超えて、引き続き交流を深めていっていただければと思います。

サッカーサークル

北海道東北ブロックを勝ち抜き、全国大会へ

事業構想学部事業計画学科3年　桑島 宏太

私たちサッカーサークルは2018年9月に行われた全国大学同好会サッカー選手権大会北海道東北ブロックで優勝して、大阪府堺市で2018年12月に行われた全国大会に出場しました。昨年度卒業された先輩方のフットサルの全国大会出場に続き、今年度は初のサッカーでの全国大会出場となりました。

北海道東北ブロックでは、予選を2位で突破し、決勝に進出しました。決勝戦の相手は強豪の東北学院大学でした。前半序盤に相手の一瞬の隙を突いて、先制し、全員守備で最後まで気持ちを切らさずに守り切り、優勝した時の喜びはひとしおでした。

一方、全国大会出場には多額の遠征費がかかります。後援会から高額の資金援助をいただきましたが、それでも大学生にとっては大きな負担となることが悩みの種でした。そこで私たちはクラウドファンディングや後援会主催のイベント会場で募金活動をさせていただくなど大会前に資金集めの活動をしました。おかげさまで多くの方々から温かいお言葉と135．053円という大変多くの支援をいただくことができました。本当に感謝しています。

こうしてたくさんの想いを背負って挑んだ全国大会では、関東、関西の強豪を前に一歩力が及びませんでしたが、今回の大会を通して、宮城大学を全国に少しは知ってもらえたと思います。初めての挑戦でもあり、私たちにとってはとても貴重な経験でした。

また、多くの方々とのつながりによって、全国大会出場は実現出来ました。こういった宮城大学のつながりは素晴らしいものだと感じます。これからも宮城を、東北を盛り上げられるように頑張ります。応援ありがとうございました。

大和キャンパス コモンズ整備進む

図書館をリニューアル「ディスカバリーコモンズ」に

2018年の一連のコモンズ（学生の共有空間）整備で、大和キャンパス全体がより一層明るくなりました。

大和図書館は「ディスカバリーコモンズ」として、昨年9月21日にリニューアルオープンしました。写真①②のように閲覧席をブーメラン型のデスクやカウンターテーブルに入れ替えて、一人ひとりに十分な照明と電源を確保した横長の閲覧スペースを実現しました。本やノートの他にPC持込みが必須になった現代の学習方法に合わせた形です。近くに座る利用者同士の視線が交錯しない工夫もされており、学生の満足度は上々です。

DVDなどの視聴覚資料を利用できる空間も一新され、写真③のように音を出してのグループ視聴がいつでも可能になりました。これまでの壁を撤去してガラス張りに変え、室内のアクティビティを可視化しています（写真④）。写真⑤のソファと窓の外のテラス、奥のディスカッションルームの家具は、県内工房の造作によるデザインで一体感を持たせています。

写真④右端の「コモンズ口」を新たに設置して出入口が一つだった図書館の動線を変え、ロッカー室方面とつながりました。写真⑥はコモンズ口から入ったところにあるイベントスペースで、10月6日に開催された「六限の図書館」の様子です。写真展を背景に、写真家・大西暢夫さんのトークに学生や地域の方々が耳を傾けているところです。

2019年は太白キャンパスでもコモンズ整備が進みます。

（学術情報室長　阿部成雄）

①②一人ひとりに十分な照明と電源を確保した「閲覧スペース」

③グループ視聴が可能な「メディアテーク」

④壁はガラス張りで全体が見渡せる。右端に「コモンズ口」を設置。動線にも変化が

⑤県内工房の家具を使った、一体的デザインの「ブラウジングスペース」

⑥「イベントスペース」で開催された「六限の図書館」